

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月31日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの進路を保障する教育課程を編成するとともに、高いレベルの学力(思考力・判断力・表現力)を育成する。 ②生徒会活動や学校行事を活性化させ、自主性や主体性を育む。	①確かな学力をつけるために、生徒が自ら課題を発見し、解決する力を育む観点からの学習支援に取り組む。 ②学校生活の充実を図るために、生徒の主体的で自発的な行事での活動を支援する。	①主体的、対話的な深い学びの実現に向けた授業改善をとおして、各教科において創意工夫を生かした教育活動を展開する。 ②学校行事の遂行にあたって、生徒一人ひとりの責任感や連帯感を涵養し、望ましい人間関係を築いていく。	①学力向上に資する主体的、対話的な深い学びを確立し、教科横断的な授業改善を進めることができたか。 ②学校教育活動として、生徒会活動や各種行事の活性化が図れたか。	①生徒による授業評価のデータ分析、個別研修等の研究授業、授業観察等の機会を踏まえて授業改善を図っている。 ②生徒会等の行事を、自主的運営により展開するよう努め、自己達成感が得られるような効果を引き出している。	①教科横断的な授業改善の取組への意識改革がさらに必要となる。他教科における実践の有効な手立てを自教科に創意的に取込む。 ②現状での行事の制約が、特別活動や生徒会活動等の減退に繋がらないように、配慮しつつ具体的な工夫を模索していく。	授業改善の取組は評価できるが、「取組への意識改革がさらに必要となる」という課題をどのように解決していくのかについて今後の具体的な方策を見ていきたい。  コロナの影響で行事等の制約がある中で生徒会活動は、生徒のモチベーションを高めることも含めて、どのように工夫していくか。学校生活の充実という部分で、配慮や工夫が必要。	①生徒の学力向上に資する主体的、対話的な深い学びの確立のために、授業改善の取組を進めてきた。教科担当者の授業力向上に向けて、全ての教科における実践の有効な手立てを創意的に取込むことが課題である。 ②生徒会等の行事を、自主的運営により展開するよう努め、今年度は行事の制約が、特別活動や生徒会活動等の減退に繋がらないように、配慮しつつ具体的な工夫を講じることが実践できた。	①教科会を主とした研究授業や授業参観における協議・検証を進めていく。授業改善が学校全体の情報共有等によって、実りある意識改革につながる機会とする。 ②授業時間の確保を行事などの特別活動の精選により図ってきたが、行事の内容や活動の実態を検証し、生徒の責任感や連帯感を涵養できているか検討する。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	①部活動を活性化させると同時に学習との両立を図る。 ②豊かな人間性を涵養するとともに、個に応じた支援体制を構築する。	①適切な休養日を設けるなど指導計画を作成し、特に定期試験前の活動には制約を設ける。 ②臨時休業に伴う生徒のストレス軽減の方法を模索し、安心感のある学校生活を送れるよう支援する。	①休養日の取得状況を把握し、夏季講習や定期試験期間の活動を把握する。 ②学年会、生徒情報交換会議、生徒アンケート等を活用して生徒理解を深める。スクールカウンセラーを有効に活用する。	①休養日が設定され、夏季講習や定期試験の学習時間が確保されていたか。 ②2か月に1度は生徒情報交換会議を行ったか。スクールカウンセラーを十分に活用できたか。	①休養日を一定数確保するとともに定期試験前・中の活動を制限するなど学習との両立を図っている。 ②学年会、生徒情報交換会議、生徒アンケート等を活用して生徒理解を深めることができ、スクールカウンセラーも有効に活用できている。	①部活動に対する意欲と学習に対する取組みが両立しているかどうかの判断や評価をどのように行うかについて検討していく。 ②スクールカウンセラーの利用希望が多いことに対応していけるか、工夫していく。	進学校として部活動と学習の両立は重要なテーマであり、両立しているかどうかの判断や評価の方法については、ぜひ検討していただきたい。  希望している生徒が皆利用できるようスクールカウンセラーの日程を多くしてもらえるといい。スクールカウンセラーだけに頼らず、生徒と先生方との、日頃からのコミュニケーションが大事。	①部活動と学習の両立を図ろうと意識した活動が各部活動で計画的に行われるようになった。顧問と部員の相互理解のもと活動が行われているかを確認していく必要はある。 ②スクールカウンセラーの配置日は1回多く対応できたが、十分な日数を確保できていない。今後も県に回数の増加を要望していく。課題を抱える生徒に対しては、スクールカウンセラーと担任や学年が連携して課題解決に向けた対応をすることができた。	①部活動総点検アンケートを積極的に活用し、生徒の活動状況や要望を把握して活動に活かせるようにする。 ②スクールカウンセラーの配置日の増加については引き続き要望していく。今後もスクールカウンセラーと教員が連携して対応していく。
3 進路指導・支援	①探究的な活動を通して、課題解決に向けて主体的・協働的に取り組む姿勢を養う。 ②キャリア教育を充実させ、生徒の第一志望の進路実現を支援する進路指導を推進する。	①自身と社会のつながりに目を向け、他者と協働しながらよりよい社会を切り拓くための主体性と協調性を育む。 ②キャリア教育の視点から、適切な進路指導を行い、生徒の進路希望の実現をめざす。	①教科指導および「総合的な探究の時間」を通して、教科横断的・総合的に探究する過程を繰り返し経験させる。 ②職員研修を実施し、模擬試験や合否結果等のデータの分析方法や活用方法を研究するとともに、生徒および保護者に対して高い目標を維持し、努力する意識啓発を行う。	①探究課題に対して主体的・協働的に取り組むとともに、探究手法を身に付け、適切に表現できたか。 ②国公立大学現役合格者数40人以上を達成したか。また保護者懇談会にて、情報提供を行った。	①1年生は10月、2年生は11月に中間発表を行った。企業の方の評価も高かった。最終発表に向けて分析・検証に取り組んでいく。 ②職員研修を実施した。生徒への進路指導の一助となった。また保護者懇談会にて、情報提供を行った。	①4月から6月まではGoogle Classroomを活用してオリエンテーション動画の配信などで課題に取り組んだ。夏休み明け以降は大学との連携も進めることができている。 ②模擬試験のデータをより活用するために、次年度に向けて模擬試験の実施時期、回数等を検討する。	探究的な活動を通して行われる課題解決の具体的な取組(中間発表・最終発表)が行われている点は評価できる。動画配信などのICTを活用した取り組みや外部とのリモートでのやり取りなど今までにないやり方や情報の扱い方が生まれている。 第一志望の実現に向けた目標設定は適切と思われる。生徒の皆さんにより高い目標を立てて取り組むよう指導していただきたい。	①1・2年生ともに探究プロセスを踏まえた探究活動を行うことができた。また、企業や大学と連携するとともに、1年生は探究活動におけるスキルを、2年生はグループ探究による協働性を育むことができた。一方、課題設定において「答えのない問い」を立てることに苦労する生徒が多くみられた。 ②国公立大学現役合格者50人、難関私立大学合格者数75名で、ともに目標値を超えることができた。	①「総合的な探究の時間」だけでなく、各教科・科目での探究的な視点を意識した授業改善や、教員研修などを通じて、学校全体として探究活動に取り組む体制の推進を図る。 ②3年次の模試回数を2回から4回に増やし、その結果を生徒の第一志望実現のために有効に活用していく。あわせて、来年度以降も数値目標を達成できるように、生徒および保護者に対して、高い目標を維持していき、情報発信を続けるなど意識啓発を続けていく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月31日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>①学校運営協議会を活性化するとともに、家庭、地域、学校間、校種間、企業等との連携を図る。</p> <p>②教育活動の情報を積極的に発信する。</p>	<p>①地域防災活動など地域との協働の機会を活用し、地域から期待される学校としての役割を果たす。</p> <p>②ホームページを一層充実させ、本校の取組を紹介する広報活動を積極的に行う。</p>	<p>①学校運営協議会などから地域等と生徒の協働に関する情報提供を受けた時には、積極的に参加を促し、地域連携を推進する。</p> <p>②教育活動や部活動などにおける生徒の活躍を積極的に広報する。</p>	<p>①他校種や市、地域等のイベントや防災活動などへ生徒は積極的に参加し地域貢献等できたか。</p> <p>②ホームページや学校説明会などを通じた情報発信にさらに充実させることができたか。</p>	<p>①学校運営協議会は2回とも書面開催となった。避難生活施設運営委員会は開催できなかった。地域との連携としては農協の直売所のシャッターアートデザインを依頼され、美術部員が参加した。</p> <p>②ホームページにより「総合的な探究の時間」の取り組みの他、「学校説明会」「大和祭」動画視聴等の内容を充実させた。</p>	<p>①新型コロナウイルスの影響で地域等との協働は思ったように進まない状況が続いているが、美術部の取組みのような小さな協働を少しずつ積み上げていきやう方も広がっていきたい。</p> <p>②ホームページ掲載情報の更新頻度を高める等、タイムリー且つアップデートされた情報の発信に取り組んでいきたい。</p>	<p>ボランティア活動やアルバイト等も役に立つのではないかと。相手を確認しながらの直接的な関係づくりがほぼできない状況が残念。美術部の取組みは素晴らしいと思います。コロナ禍により当初の計画通り対応できない内容が多かったのではないかと、ホームページの更新頻度を高める工夫や大和祭等を動画視聴できるようにする等、工夫されている点は評価できる。学期に2回くらいの割合で回覧板や地域の掲示板で広報することも考えられるのでは。</p>	<p>①地域からの要望をもとに、創作活動を行うなど地域に貢献する学校づくりを図った。学校運営協議会や部活動におけるつながりを継続し強化するとともに、学校と地域をつなぐ直接的な関係づくりを進めていく必要がある。</p> <p>②学校説明会を安全に実施するとともに、動画やホームページを通して学校行事や学校説明会の様子を配信するなど中学生、保護者に対する情報発信を行った。ホームページによる情報発信を充実させるとともにそれ以外の媒体を使った広報活動も検討していく必要がある。</p>	<p>①現在行っている地域との協働的取組について情報共有をすすめるとともに、地域における様々な取組に参加し、情報交換を行いながら、新たな協働的な活動につなげていく。</p> <p>②中学校等学校外の教育機関との交流機会をより増やし、対面での広報活動を推進していくとともに、広報活動に対する要望等を踏まえ、新たな媒体や発信する情報内容を精選、充実していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①教員のワークライフバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。</p> <p>②安全安心な学校生活のための教育環境を整備する。</p>	<p>①年次休暇の年平均取得日数は、15日以上とする。</p> <p>②生徒が学校環境の美化に主体的に取り組む気持ちを育てる。</p> <p>③耐震補強工事に向けて、学校環境整備や安全確保に努める。</p>	<p>①仕事の効率化を進め、年次休暇を取得しやすい環境を作る。</p> <p>②地域清掃活動をはじめ、大掃除や日常清掃、行事の後片付け等において、美化意識を育てる。</p> <p>③様々な教室の整理整頓を推進する。 ・耐震補強工事に関する情報を職員、生徒・保護者に周知する。</p>	<p>①年次休暇平均取得日数は前年度より増加したか。</p> <p>②年間を通じて学校環境の美化に努めることができたか。また、多くの生徒が主体的に取り組めたか。</p> <p>③校内設備や耐震補強工事等の関係で、事故怪我なく学校が運営されたか。</p>	<p>①15日以上年次有給休暇が取得可能な51名の教員のうち※10日以上取得している教員は12名、15日以上は14名、10日以上で見ると全体の半数を超えている。 ※1時間単位集計</p> <p>②ゴミを自主的に持ち帰るよう啓発活動をするとともに、地域清掃を通して社会貢献や美化意識の高揚に努めた。</p> <p>③連絡体制をしっかりとつくり、事故怪我なく学校が運営されるよう努めた。対応を要する箇所があれば情報を共有し、出来る限り迅速に対応した。</p>	<p>①年次休暇を取りにくい環境ではないものの、生徒の学習指導にかかる時間が仕事量の大部分を占めている。教材の共有化などをさらに進める必要がある。</p> <p>②引き続き、地域清掃に積極的に取り組めるよう、声掛けをしていく。</p> <p>③引き続き、事故怪我なく学校が運営されるよう、情報共有に努める。</p>	<p>生徒の学習指導にかかる時間を削らず教員の働き方改革を進めるのは大変。教員の働き方改革を推進するため具体的な目標設定をしている点は評価できる。学校環境の美化に取り組む意識を育成することも大切であり、その成果として、学校内のゴミ削減状況が確認できるとよい。地域清掃への取組みも具体的に記録に残ることで達成度を確認することができる。防災訓練などの非常時の計画は実行していると思いますが、実際の災害などの時、つまりいざという時の心構えを日頃から教えていくことが大事。耐震補強工事については地域として工事等の情報共有を継続してほしい。</p>	<p>①授業があるため、1日休暇を取得することが難しいので1時間単位集計で分析した。年次休暇の年平均取得日数が10日以上の教員が半数を超えている。休暇を取れる機会には取ることができるとは整っていると考えられる。</p> <p>②年間を通じて学校環境の美化に努めることができた。また、多くの生徒が主体的に美化活動に取り組んだ。</p> <p>③耐震補強工事に関する情報を職員、生徒・保護者に周知し、事故怪我なく学校が運営された。対応を要する箇所があれば情報を共有し、出来る限り迅速に対応した。</p>	<p>①目標は15日以上であるので目標値を下げることなく、一人でも多く目標値を超えることができるよう教材の共有化などさらに工夫を進めていく。また、年度当初に年間取得目標日数を報告されるなどの働きかけも有効と考えられる。</p> <p>②新型コロナウイルス対策を講じながら、生徒・教職員の学校環境美化意識の向上に努めていく。</p> <p>③地域清掃活動については、記録に残すことを意識しながら継続して取り組んでいく。</p> <p>④耐震補強工事に関わる情報を引き続き共有し、事故怪我なく学校が運営されるように努める。また、それに伴う校舎内引越等、通常とは異なる動きが予定されているが、事前準備をしっかり行い、スムーズな対応ができるよう心掛ける。</p>